

美術科学習指導案

日時 平成24年5月25日(金) 第2校時
 対象 2年4組(男子20名 女子20名 計40名)
 指導者 教諭 濱川 達一

1 題材 生活を彩るデザイン(2年 表現:デザイン)

2 題材名 「和紙と光でつくる, ステキな空間」

3 題材設定の理由

(1) 題材観

東日本大震災後, エネルギー問題への関心は急速に高まっている。特に省電力化は喫緊の課題であり, 様々な分野で取組が進められ, 限りあるエネルギーを有効に使うことが求められている。近年, 照明機器をLEDに変更する家庭が増えている。照明機器メーカーは, LEDの特徴である省電力とともに, 色温度と明るさによる心理効果を考えた商品を発売している。そのような効果を考え, 照明(光)を生活に生かしていくということは豊かな生活を手に入れるために大切な要素である。

元来, 日本は豊かな自然に恵まれ, 季節を感じながら生活をしてきた。伝統的な日本家屋の造りをみても, 屋外と屋内の境をなるべく少なくし, 暮らしの中で自然を楽しもうとする美意識を感じる。現在でも多くの家庭にある「障子」は, その代表的なもののひとつである。自然の光をやわらかい光として取り入れ, 和紙の風を通さず湿気を逃がすという特徴を上手く利用した日本人の感覚や美意識は, 今もなお私たちに引き継がれている。また, 新学習指導要領でも, 改正教育基本法において教育の目標の中に伝統と文化を尊重する態度を養うことが新たに規定されたことを受けて, 美術科の目標の中に「美術文化についての理解を深め」という内容が新たに加わった。この中で, 美術科は文化に関する学習において中核をなす教科のひとつとされ, 我が国はもとより, 人々の美意識や創造の精神を学び, 身近な美術文化として生活の中で活用させることが求められている。

本題材「和紙と光でつくる, ステキな空間」は, 日本文化の中で伝統的に使われてきた素材である「和紙」を使い, 光を包み込むことで, 空間を演出する光のオブジェをつくるという題材である。和紙がつくるやわらかな光や, その温かさ, 重ねたり破いたりすることで生まれる色や形の面白さを味わわせることで, 日本人のもつ美意識に気付かせるとともに, 暮らしの中における光の役割や効果を理解させることを目的とした。また, 1年次で学習した抽象的な表現を生かして, 色や素材からのイメージだけではなく, フォームから生み出されるイメージのおもしろさにも気付かせることができる題材である。本学習を通して, 和紙や光のもつ美しさに気付かせ, 暮らしの中で光のもたらす効果への理解を深めることで, 生活を豊かにしていこうとする態度を育てることができると考え, 本題材を設定した。

(2) 指導観

本校の生徒は, 様々な小学校から入学してきているため, これまでの学習経験の差が比較的大きい傾向にある。しかし, 本題材で使用する和紙と光という組み合わせは, 中学校で初めて扱うため, これまでの経験による差が生じにくいと考える。そのため, 光と和紙といった素材との出会いの場面での驚きや感動

を大切にし、題材に対する興味・関心を高め、意欲的に制作に取り組ませたい。

指導にあたっては、和紙の光の拡散作用や透過性を最大限に生かし、空間を演出する構想を練り、色や形で光を操る楽しさを味わわせたい。また、既習事項である構成美の要素や抽象的な表現を活用させることで、広がりや深みのある発想をさせたい。

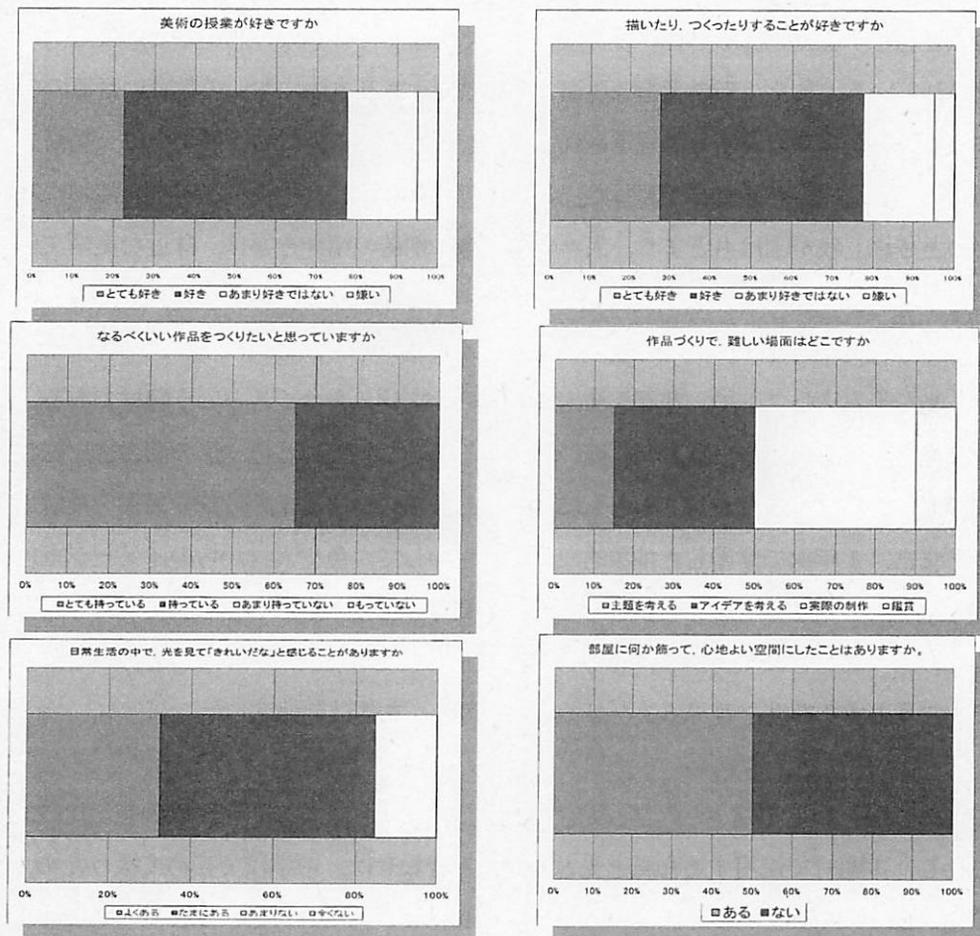
題材の導入の場面は、生徒と題材が出合う大切な場面である。そこで、授業の始めに美術室を暗くし、和紙を通した光を実際に体験させ、驚きや感動を持たせることで制作に対する意欲を持たせる。また、実際に和紙の作り出す光を鑑賞しながら受けた印象や感想などを自由に発表させ、教師と対話することで印象をより明確にし、発想を広げ深めることにつなげていく。また、簡単な演習を通して、光と和紙に十分に触れさせ、経験させることによって、和紙と光の組み合わせによる美しさや和紙を使った多様な表現に気付かせたい。

題材の展開の場面においては、和紙の使い方による光の変化とともに、形によるイメージや印象の変化についても考えさせることで発想を広げ深めさせていく。また、自分の発想したことをペアや小グループで説明したり意見を交換したりすることで、他の意見や新しい視点に気付かせるようにする。また、発想したことをすぐに試せるように目の前に電球を用意し、光の効果を試行錯誤しながら構想を練ることができるようにする。

題材の終末の場面においては、美術室全体を展示会場にし、自分自身の作品と向き合ったり、友達の仕事のよさを味わったりすることによって、光と和紙の作り出す美しさや日常生活を豊かにしようとする美術の働きについて理解を深めさせたい。

(3) 生徒の実態

本時の指導に先立ちアンケート調査を行った結果を示す。(対象：附属中学校2年4組40名4月実施)



Q：どんな光を見たときにきれいだなと思いますか（自由記述）

・木漏れ日 ・雲の隙間からの光 ・朝日 ・夕日 ・ろうそくの光 ・蛍 ・家のあかり ・街灯
 ・反射したキラキラした光 ・街のあかり ・照明 ・イルミネーション

Q：自分の家や部屋にどんなものを飾っていますか：（自由記述）

・花 ・観葉植物 ・写真 ・ポスター ・自分でつくった作品 ・プラモデル ・木の板に絵を描いたもの ・ぬいぐるみ

本学級の生徒たちは、日ごろから美術の学習に意欲的に取り組んでおり、約77%の生徒が美術の学習に対して「とても好き」「好き」と答えている。また、美術の基本的な活動である「描く」「つくる」という活動に対しても約77%の生徒が好きであると答えており、美術が好きではない生徒と描いたりつくったりする活動が嫌いな生徒の割合が、ほぼ合致することが分かる。しかし、「よりよい作品をつくりたいと思っていますか」との質問には、全員がそう思っていると答えている。

この結果から、よい作品をつくりたいと思っはいるが、思うように描いたりつくったりすることができずに、活動を楽しめと感じることができない状況が予想される。困難を感じている活動内容としては、大部分の生徒が「アイデアを考える場面」「実際に制作をする場」に対して難しさを感じているようである。授業においては、生徒の苦手意識を解消するために、実際の制作活動とアイデアを考える活動の両方をそれぞれ独立した活動にするのではなく、発想・構想と制作活動につながりをもたせて取り組ませたい。

普段の生活の中で、自分の家や部屋に何かを飾って楽しんだことがある生徒は50%であった。この結果は、予想よりもかなり低い割合であった。半数の生徒が、身近な場所や空間を飾ったり、心地よくしたりした経験を持っていない。しかし、日常生活の中で、あかりやイルミネーションなどを見てきれいだと感じる心は持っているため、その心を具体的なものとして日常生活へと結び付けていくことが必要である。これらを踏まえ、本題材では、暮らしを彩り豊かにしてくれる美術の働きに興味・関心を持たせ、暮らしに欠かすことのできない光の役割やその効果、和紙などの我が国の美意識を感じ取らせることによって、生徒たちの豊かな発想を引き出し、創る喜びを実感できるような授業を展開していきたい。

4 題材の指導目標

(1) 美術への関心・意欲・態度

光や和紙のもつ美しさを基に目的や機能を考えて表現し、暮らしの中で光のもたらす効果や美しさに興味・関心が持てるようにする。

(2) 発想や構想の能力

感性や想像力を働かせて、使用する目的や使用する者の気持ちや機能などを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさを考え表現の構想を練ることができるようにする。

(3) 創造的な技能

和紙のもつ特性を理解し、光の効果や特性を生かすことで、自分の表現意図に合う表現方法を工夫し、完成までの見通しを持って創造的に表現できるようにする。

(4) 鑑賞の能力

日常生活の中にある光の美しさや日本の伝統的な美しさに気付き、その美しさを感じ取ったり生活を豊かにしようとしたりする美術の働きについて理解を深めることができるようにする。

5 題材の評価規準及び学習活動に即した評価規準

	ア関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	日本の伝統的な美意識を基に目的や機能を考えて表現することに関心を持ち、光のもつ効果や造形的な美しさを考えて構想を練ったり和紙の特性を生かしたりしようとしている。	感性や想像力を働かせて、使用する目的や使用する者の気持ちや機能などを基に形や色彩の効果を生かして造形的な美しさを考え表現の構想を練っている。	和紙のつくり出す光の効果や特性を生かして、自分の表現意図に合う表現方法を工夫し、完成までの見通しを持って、創造的に表現している。	生活の中に息づく日本の伝統的な美意識に気付き、その美しさを感じ取ったり生活を豊かにしようとしたりする美術の働きについて理解を深めようとしている。
時	学習活動に即した評価規準			
1 (本時)	① 光の美しさを感じ取り、味わおうとしている。(発表、活動の様子) [C:見る視点を与える]	① 素材による光の変化から発想を広げている。(活動の様子) [C:具体的な視点を与える]		① 和紙や光のつくる美しさを感じ取っている。(活動の様子、ワークシート) [C:具体的な視点を与える]
1		② 形における造形的な効果を考えながらアイデアを発想し、構想を練っている。(ArtWorks) [C:参考作品を紹介し視点を与える。] ③ 和紙や光の効果を考えて、表現の構想を練っている。(ArtWorks) [C:具体的な視点を与える]		
4		④ 表現の過程で気付いたことや考えたことを生かしながら表現している。(制作の様子) [C:他者の作品を紹介し、新たな視点を与える]	① 構想に合った材料や用具を選択し、和紙の特性を生かし見通しを持って制作している。(作品) [C:他者の作品を紹介する]	
1				② 自分の作品について根拠をもって説明している。(活動の様子) [C:視点を与えて、自らの作品を分析しやすくする。]

※ 学習に即した評価規準については「おおむね満足できる：B」とする場合の規準とする。()は、評価の対象、[C:]はBに到達しない生徒への手だてとする。

6 題材の指導計画

(1) 本校の研究内容との関連から

研究の視点Ⅰ

問題解決への意欲を高める取組〔実物、本物に触れる資料提示の工夫：研究冊子 美9-Ⅲ-4-(1)-イ参照〕
〔本時の手立て〕

題材の導入場面で、生徒の題材への関心・意欲を高めるとともに、素材や色、形、光を視点として与えながら対話を通して、それらのもつ効果や美しさを意識させることで、これから取り組む学習において発想が広がるようにする。

研究の視点Ⅱ

思考力・判断力・表現力を高める取組〔演習を通した発想方法の工夫：研究冊子 美10-Ⅲ-4-(2)-ア〕

〔本時で手立て〕

共通の演習を通して、題材の趣旨の理解や、発想の経験、他者の発想に触れることで、発想が深まり広がるための経験を積むことができる。授業においては、題材に関連のある共通した演習課題に全員で取り組み、同じ課題に基づいて発想したものを、グループや学級全体に提示しながら鑑賞し合うことで、様々な発想に触れることができようにする。

研究の視点Ⅲ

思考力・判断力・表現力を高める取組〔言語活動の充実を図る工夫：研究冊子 美11-Ⅲ-4-(2)-エ〕

〔本時の手立て〕

つくりだした光の表情について、ねらいや工夫を明確な根拠をもって、言葉で友達に説明したり、質問したりする言語活動に取り組みさせることで、新たな考えを取り入れ、発想や構想が深まり、広がっていくようにする。

(2) 指導計画（全体7時間：本時1／7）

時間	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 (本時)	1 参考作品を鑑賞し、感じ取ったことを発表する。 2 学習課題と今日の目標を理解する。 3 演習について理解する。 4 演習を通して和紙と光の関係を体験する中で、様々な表現方法を工夫する。 5 和紙を工夫して生み出した光の表情について紹介する。 6 グループごとに、光を和紙で包み鑑賞する。 7 和紙と光について感じたことをまとめる。 8 自己評価カードを記入し、本時の学習を振り返る。	○ 電球の光と和紙を通した光を鑑賞させ、形や色、素材から感じたことを発表させる。 ○ 和紙と光を使ってオブジェをつくることを理解させる。 ○ 和紙を工夫して使って、様々な光の表情をつくりださせる。 ○ 各グループに電球を設置し、実際に光を使って、光の表情を試させることで発想しやすくする。 ○ 互いの作品から、新たな発想や作品の構想を広げ、深めさせる。 ○ つくりだした光の表情についてねらいや工夫を説明させる。 ○ 様々な工夫された和紙に包まれた光を鑑賞させ、その美しさや面白さを十分に味わわせる。 ○ 和紙と光の関係について感じたことを素直な言葉で書かせるようにする。 ○ 自己評価を通して、本時の学習を振り返らせる。
1	9 形がつくりだすイメージの違いを学習する。 10 表現したい思いに合った形や和紙の光を考えて発想する。 11 オブジェのアイデアスケッチをする。	○ 抽象的な表現について振り返り、形や色から受けるイメージの変化について理解させる。 ○ 光に求める気持ちを表現する色や形を考えながら、和紙と光が生み出す美しさやフォルムがつくりだすイメージを生かして発想させるようにする。 ○ 光や和紙、アルミ線などの材料に実際に触れながらアイデアを考えさせ、発想が広がるようにする。
4	12 アイデアスケッチを基に、作品の構想を決定する。 13 構想を基に光のオブジェを制作する。	○ 完成予定のスケッチをワークシートにまとめる。 ○ 構想を基に、和紙がつくりだす光の美しさを生かして計画的に制作できるようにする。
1	14 作品の発表会をする。 15 学習のまとめをする。	○ 美術室を暗くして、作品の発表会を行う。 ○ 自他の作品のよさを認め合い、感想をワークシートにまとめる。 ○ 生活の中にある光の効果やその美しさについて振り返らせ、感想を発表させる。

7 本時の実際

(1) 指導目標

- ア 光のもたらす効果や美しさに対する興味・関心をもたせる。
- イ 感性や想像力を働かせ、光や和紙などの素材のもつ特徴を生かして発想することができるようにする。
- エ 和紙や光がもたらす効果やよさ、美しさを味わうことができるようにする。

(2) 準備するもの

- ア 教師：教科書、美術資料、参考作品、ワークシート、電球、和紙、のり、ハサミ、カッター、マット
- イ 生徒：教科書、美術資料、ArtWorks、筆記用具

(3) 本時の展開

	時間	主な学習活動と生徒の意識	形態	指導上の留意点と評価の手だて
導 入	5	<p>はじまり</p> <p>1 参考作品を鑑賞し、感じ取ったことを発表する。</p> <p>参考作品の鑑賞 1</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒を後方に集め、暗い中で電球の光と和紙を通した光を鑑賞させる。 ○ 形や色、素材から感じ取ったことを発表させる。 【評価規準アー①】光と和紙の美しさに関心をもっている。(発表 [C:鑑賞の視点を与える]) [視点I:研究冊子 美9-III-4-(1)-イ]
	4	<p>2 学習課題と今日の目標を理解する。</p> <p>学習課題及び今日の目標の把握 2</p> <p>学習課題：和紙のよさを生かした光のオブジェで、ステキな空間をつくらう。</p> <p>今日の目標：和紙の使い方を工夫して、いろいろな光の表情を生みだしてみよう。</p>	一斉	
展 開	6	<p>3 演習について理解する。</p> <p>演習内容の理解 3</p> <p>・使える道具や材料を把握する。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 演習を通して、和紙のもつ特徴や光の表情の変化を体験させ、発想を広げさせる。【評価規準イー①】和紙による光の変化から発想を広げている。(活動の様子) [C:具体的な視点を与える] [視点II:研究冊子美10-III-4-(2)-ア]
	15	<p>4 演習を通して和紙と光の関係を体験する中で、様々な表現方法を工夫する。</p> <p>和紙と光の体験活動 4</p> <p>・ちぎってみると面白い光になるな</p> <p>・切れ目を入れてみようかな</p> <p>・グシャグシャにしてみよう</p>	個	
開 閉	8	<p>5 和紙を工夫して生みだした光の表情について紹介する。</p> <p>作品紹介及び鑑賞 5</p> <p>・切れ目から洩れる光もきれいだな</p> <p>・〇〇君の工夫は面白いな</p> <p>・ゆらめく光を生み出したぞ</p> <p>・友達のを参考に再考する。</p>	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ○ つくりだした光についてねらいや工夫を説明させる。 [視点III:研究冊子美11-III-4-(2)-エ] ○ 紹介が終わった班には、友達の作品を参考に再考させる。 ○ 透明な容器に各人がつくった和紙を貼り、光を包み鑑賞させ、その美しさを味わわせる。(グループでひとつの容器) 【評価規準エー①】和紙や光のつくる美しさを感じ取っている。(ワークシート) [C:具体的な視点を与える]
	5	<p>6 グループごとに、光を和紙で包み鑑賞する。</p> <p>鑑賞活動 6</p> <p>・和紙の光は、とてもきれいだな</p> <p>・和紙を重ねるときれいだな</p>	個	
終 末	5	<p>7 和紙と光について感じたことをまとめる。</p> <p>学習のまとめ 7</p>	個	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の経験を基に、作品のアイデアや設置したい場所を考えておくように指示する。 ○ まとめの中で形による色の変化についても触れ、次の学習につなげる。 ○ 自己評価を通して、本時の学習を振り返らせる
	2	<p>8 自己評価カードを記入し、本時の学習を振り返る。</p> <p>本時の学習の振り返り 8</p> <p>和紙でいろいろな光をつくるのができたな。家のどこにどんな色や形の作品を置こうかな。</p> <p>おわり</p>	一斉	